

第7回 長瀬町小中一貫教育 検討委員会

開催：令和7年11月25日



本日の 主な内容

1. 開会・挨拶

2. 経緯・経過

- ① 児童生徒数の推移
- ② 老朽化状況
- ③ 施設について

本日の 主な内容

3. ワーキンググループ(3班体制)

- ① 児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
 - ・施設分離型にするのか
 - ・同一敷地隣接型にするのか
 - ・施設一体型にするのか
- ② 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校のどちらがふさわしいか
- ③ ワーキンググループの意見発表

4. 閉会

ワーキンググループ メンバー

グループA	野澤	酒井	鈴木	林	
グループB	堀口	本多	野村	蓮沼	
グループC	福島	染野	平井	大沢	高橋

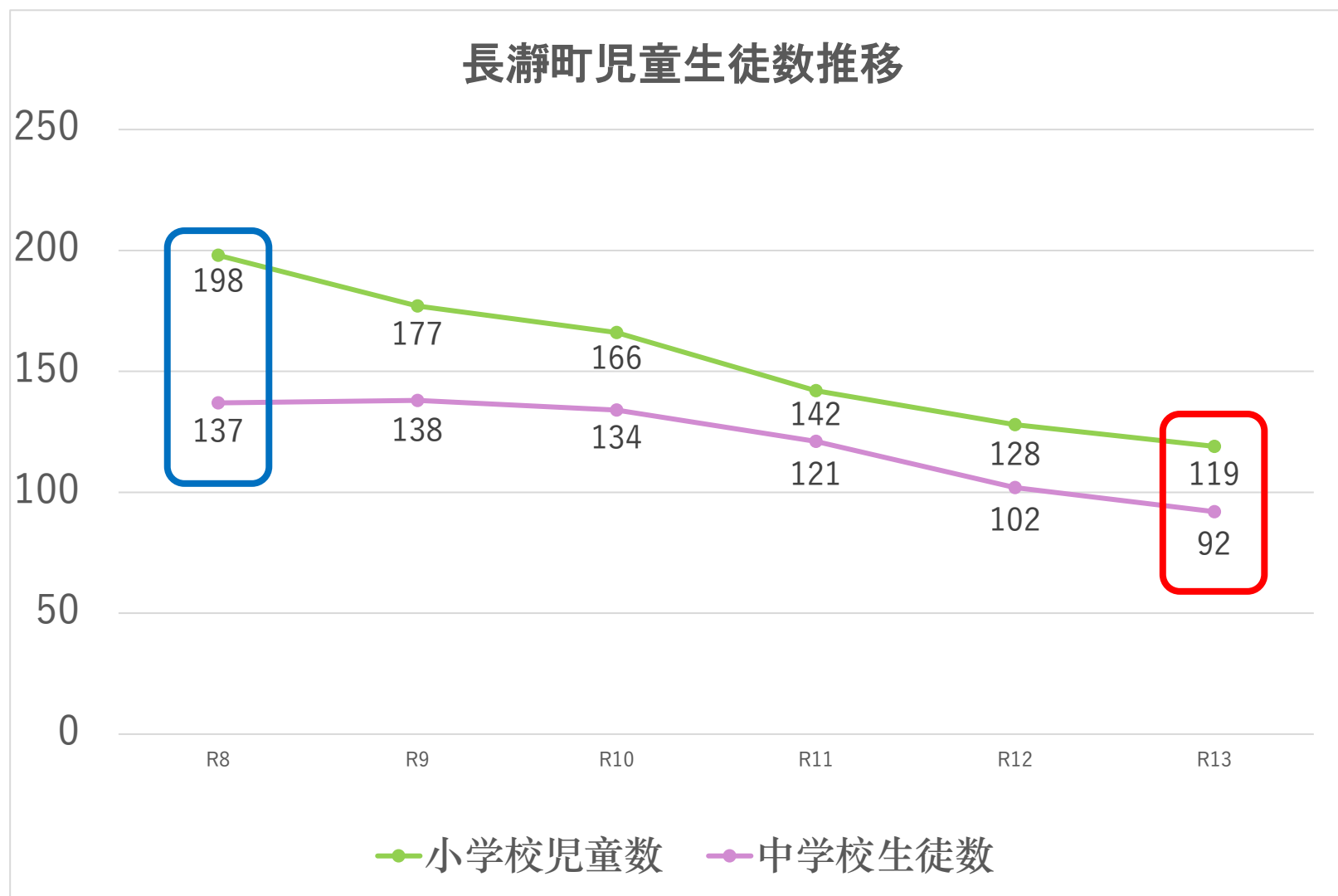
2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校 教職員数について

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移



2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校の開始をR13年度とした場合

学校名	児童生徒数
長瀬第一小学校	119
長瀬中学校	92

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

児童生徒数に対して
職員数は？

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

各学校における教職員数

◎ 学校に配置される職員の数のこと

学級数を根拠に確定される

◎ 小中一貫校の場合

小学校・中学校の学級数で決定される

2. 経緯・経過

教職員数を令和13年度で仮定すると

学校	学級(見込み)	職員定数
長瀬第一小学校	8(通常 6・特支 2)	11(校長・教頭・教諭) 養護教諭 1・事務職員 1
長瀬中学校	5(通常 3・特支 2)	12(校長・教頭・教諭) 養護教諭 1・事務職員 1
これを小中一貫 とした場合	職員数は 27 名となる。	

小中一貫校には上記の教職員が配置される。

※ 校長を1名とした場合、もう1名分は教諭を配置することができる。

2. 経緯・経過

他市町の小中一貫校の教職員数

	奥武蔵学園		城山学園		武蔵台小中学校		つばさ小・川島中	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
通常 学級数	6	3	6	3	7	3	10	6
特支 学級数	2	2	2	2	3	2	3	2
職員数	11	12	11	12	13	12	17	16
養教	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	1	1	1	1	1	1	1	1
職員数 計	$13 + 14$ $= 27$		$13 + 14$ $= 27$		$15 + 14$ $= 29$		$19 + 18$ $= 37$	

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

追加での教員配置について

市町・学校の実態に合わせて、職員が配置される場合がある

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校が一体型の場合のメリット

- ◎ 9年間で一貫したふるさと教育の実現
- ◎ 中1ギャップへの対策
- ◎ 小中学校それぞれの視点に立った児童生徒支援
- ◎ 小中での一貫した学習指導が可能

2. 経緯・経過

② 老朽化状況

- ・ 長瀬第一小学校・長瀬中学校の状況としては、小学校が約50年、中学校も約54年が経過しており、屋根、外装、内装、設備とも広範囲にわたり劣化が進行しています。昨年とは漏水により天井の一部が落下するなど、改修工事を行っています。そういうことから、今後、長寿命化改修工事はさけては通れないと考えます。
- ・ 学校給食センターは竣工後44年が経過し、その後は大規模な改修工事を行われていないため、屋根、外装、内装、設備の劣化が進んでおり、特に排水管の劣化が著しい状況です。
学校給食衛生管理基準を満たしていないため早急な改築工事が必要になります。

2. 経緯・経過

② 老朽化状況 昨年度に実施している劣化状況調査による評価

基準年:2024年

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点)
長瀬第一小学校	西校舎	RC造	1976	48	C	C	C	C	C	40
	東校舎	RC造	1978	46	C	C	C	C	C	40
	体育館	RC造	1979	45	B	C	C	C	C	43
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	B	B	C	C	C	53
	技術棟 (特別教室棟)	RC造	1979	45	B	D	D	C	C	23
	体育館	RC造	1970	54	B	B	C	C	C	53
	剣道場	SRC造	1986	39	B	B	C	C	C	53
	卓球場 (柔道場)	木造	1995	29	B	B	B	B	B	75

■屋根・屋上、外壁の評価基準

- A:概ね良好
- B:部分的に劣化
- C:広範囲に劣化
- D:早急に対応する必要がある

■内部仕上、電気・機械設備の評価基準

- A:20年未満
- B:20年～40年
- C:40年以上
- D:経過年数に関わらず著しい劣化事象がある

2. 経緯・経過

③ 施設について

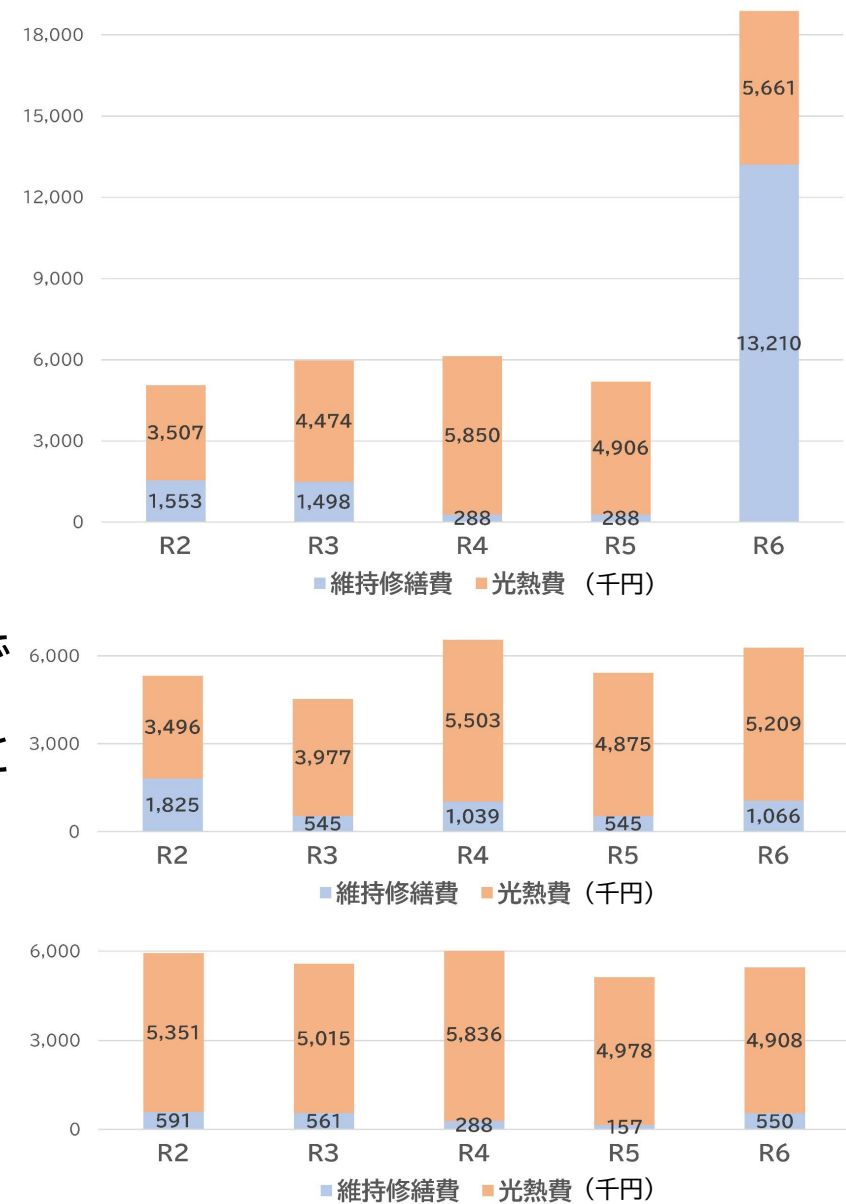
- ・ 年間の維持管理コスト(5年間)

◎小学校 年間平均 824万円

◎中学校 年間平均 561万円

◎給食センター 年間平均 564万円

5年間で
みると



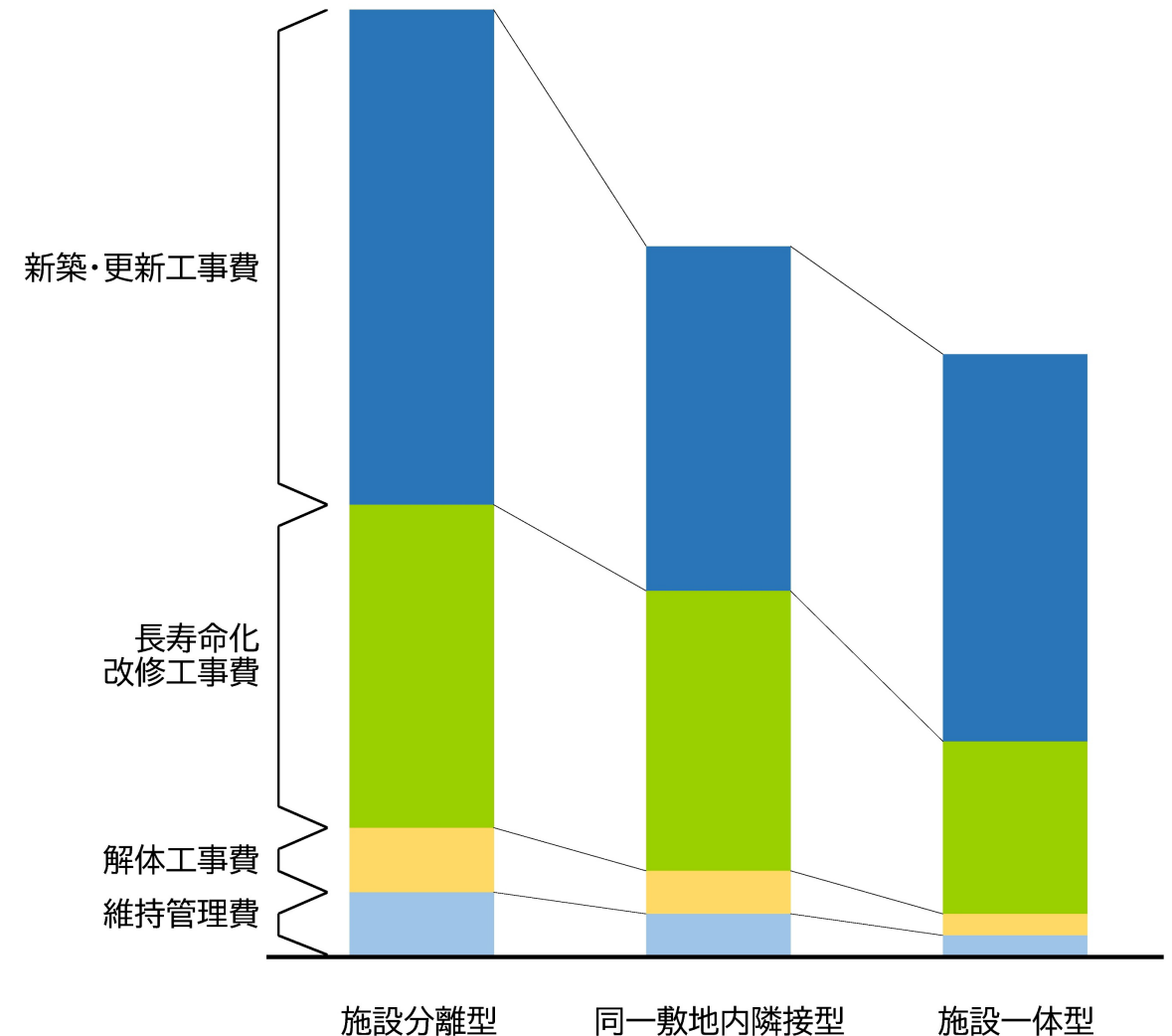
今後も建物の
老朽化に伴い、
修繕費は増加
していく

2. 経緯・経過

③ 施設について

- 管理効率性

将来、児童生徒の数が減少する中で、小学校と中学校と学校給食センターを目標使用年数まで維持し、その間に長寿命化改修工事など莫大な費用を掛けても、いずれそれぞれの建物が更新の時期を向かえて、建替えを行うのであれば、施設一体型へシフトすることで、財政的にも負担が軽くなります。



2. 経緯・経過

③ 施設について

- ・ 補助金等について

3. ワーキンググループ

① 児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について

- ・ 施設分離型にするのか
- ・ 同一敷地隣接型にするのか
- ・ 施設一体型にするのか

② 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校のどちらがふさわしいか

③ ワーキンググループの意見発表

4. 閉会